

## 個人事業と税の関わり

熊谷市立大原中学校3年 福田 紗和

先日、母が開業した。連日にわたり開かれるリモート会議や、全国各地で行われる勉強会など、積極的に参加した末、実現したことだ。そのおかげか、まだ事業を開始したばかりだが、客足は著しく増加している。これまでの母は、何においても私を優先しているように見えた。昔から多趣味な母だったが、父と共に、私のやりたい事を一番に考えてくれていたからだ。私が自分で道を切り拓けるようになってきた今、母が一人の子供の母親としてだけでなく、一人の個人事業主としての人生を謳歌していることが嬉しい。

さて、個人が事業を開始した際、義務として税務署に出さなくてはならない書類がある。「個人事業の開業・廃業等届出書」いわゆる「開業届」というものだ。その開業届を提出するため税務署に行く母に、このような機会は滅多にないと思い私も付いて行った。「開業」や「税務署」という聞き慣れないワードにとらわれ、複雑な手続きを何時間もかけて行うのかと想像していたけれど、それは大間違いだった。専用の書類に必要事項を記入し、受付に提出するだけの簡単な作業だったのだ。母が書類に記入をしている間、私は税務署内に貼ってあるポスターを見て回っていた。しかしふと、なぜ開業届を税務署に提出するのか疑問に思った。開業する事と税にはどのような関係があるのだろうか、そう思い帰宅後すぐに調べてみた。すると、個人事業主は主に所得税・住民税・事業税・消費税の4つを払う必要があるとわかった。また、土地や家屋を所有している場合には固定資産税がかかり、国民健康保険の保険料も納めなければならないそうだ。事業と税は密接に結びついており、切っても切り離せない関係にあるのだと気づいた。それから税務署で行われる業務や税務職員の方々について興味を持ち、さらに調べてみた。

まず、税務署内には総務課・徴収部門・個人課税部門など、いくつかの部署が置かれており、それぞれ業務内容は異なるとわかった。個人課税部門では所得税や個人事業主の消費税を扱っているので、母はここに多く関わるだろう。

次に税務職員の方々について知るため、税務署で頂いた国税庁のパンフレットを開いた。そこで私は、「税務署のファンを増やしたい。」「社会に貢献したい」「税の知識を普及したい。」という税務職員の方々の切実な思いを目にし、感銘を受けた。

義務とは、国民が自分達の未来を自分達で築くためにあるのだと思う。納税は代表的な国民の義務だ。だから当然、ほとんどの人が関わる。その人達全員で、前述のような税務職員の方々の思いに応えられるよう、正しい申告と納税を行い、安全で豊かな生活を送り続けていくことを、私は一番理想としている。その理想を現実にするため、私自身「社会に貢献している」と胸を張れる大人になりたい。